



提供：内閣府宇宙開発戦略推進事務局

【表紙の説明】 みちびき初号機後継機について

みちびき（準天頂衛星システム）とは、準天頂軌道の衛星が主体となって構成されている日本の衛星測位システムのことで、英語では QZSS（Quasi-Zenith Satellite System）と表記します。

2018年11月から、みちびきは4機体制で運用を開始しており、このうち3機はアジア・オセアニア地域の各地点では常時見ることができます。みちびきはGPSと一体で利用できるため、安定した高精度測位を行うことを可能とする衛星数を確保することができます。GPS互換であるみちびきは安価に受信機を調達することができるため、地理空間情報を高度に活用した位置情報ビジネスの発展が期待できます。現在は持続測位が可能となる7機体制を構築すべく、みちびき5、6、7号機と地上設備の開発・整備を進めており、あわせて各サービスの高度化や海外展開に向けた整備も進めています。

みちびき初号機後継機は、2010年に打上げられたみちびき初号機の後継となる衛星であり、打上げ重量は約4.0t、全長は約19mとなります。設計のベースは初号機ではなく、2017年に打ち上げられたみちびき2号機、4号機です。これまで初号機～4号機が行ってきた衛星測位サービスや高精度な補強サービスなどを提供する役割を引き継ぐと共に、より安定したサービスの提供に取り組んでいます。